

挨拶 先日は素晴らしいコンサートにム参加できて  
とても感謝しています。今でもあのな人とも言えな  
達成感(？)を感じています。

日取初にニのコンサートマことを知った時に、

「胸内的に」「シヤダノ」と思いました。僕は音楽が

とても好きで、ジャンル肉系なく様々  
立の楽を叩

いて、「音楽っていいよな。」と、思っ  
て、クラシックとは  
(楽しむ)  
関係ないかもしれないですが、ベースを弾いて、  
踊らぬらしい音楽が好きなのだが、人と別で、その  
音楽をまかなうことが、マキるこのコンサートに  
しても魅かす感じました。

実際に、魅かす現実とは、目取方向の、思っ  
出

になって、本当にニホコニサートに参加させて頂  
けても幸せです。

おっし

今後もし日集のすぼりしさに気づける人は  
なめるようにワクワクしたくと感じます。

丸の内中



響け！未来へから得た物

丸の内中 渡辺

「楽しそうだから、やらん？」と友達にそ

う誘われて練習しはじめたコンサートだ、た

が、今思えば心のどこかに「も」と歌が歌え

るようになりた、い、という強い願望があ、た

と思う。音楽の授業やみんなの前で発表する

時も緊張で顔が強張、てうまく声が出な、か、

たり、音程にも自信がな、か、た、だから歌を

歌うことが少し面倒に感じる時もある、た、そ

うして期待と不安を感じながら練習に取り組

んだ。まず取り組んでみて衝撃をうけたのが

一緒に参加する学校のレベルの高さだ、た、

周囲の人のレベルが高く、低く響くハースと

高く澄んだソプラノに最もおどろいた。けれ

どその時僕は自分も負けじと頑張、ている事

に自分自身びっくりしてしま、た、今までに

感じた事のないような歌に対する興味、好奇

心を感じていた。

そして本番も近づいてきて、本番前日。僕

達はリハ一サルをすることになりました。その  
 の時に聞いた言葉に僕は合唱の大切さを知り  
 ました。それは「合唱とは、歌う人が全体の  
 何分の一ではなく、歌う人一人一人の声の  
 集まりによつて作られる。」という言葉だ。今  
 までの僕は合唱する時、自分は歌を歌わなく  
 ても全体に影響しないと思つていた。けれど  
 本当の合唱は一人一人がその歌を大切に、そ  
 れぞれの個性を交じえて歌うことがなにより  
 大切だと言うことを悟つた。本番、僕はその  
 言葉通り、一生懸命、心を込めて歌つた。そ  
 の時、自然と緊張はなかつた。歌いおわつて  
 拍手が沸いている時、生まれて初めて歌を歌  
 つて解放感を感じた。  
 コンサートを終えて、僕は歌を歌うことを  
 心の底から楽しいと思えるようになった。そ  
 れに積極的に歌うようにもなった。すばるこ  
 のコンサートのおかげだ。本当にこのコンサ  
 ートに対して感謝したい。

白フラコンサートの感心想文 九月十九日(金)まで

第二部が始まって、演奏を聞いたとオ、バ  
ガ震えました。すごい。グアイオリシの手の  
動きが、そろっていて、テイシパニがならす  
音がはやく、広いホールに大きく迫力のあ  
る音がなりびびりて、勝手にすいニまわって  
きそうな演奏でした。そこで私は改め、二  
のコンサートの素晴らしさがわかりました。

九月七日のオケ合わせ、自分の目の前でオ  
ーケストラの音が鳴って、ビツクリしま  
した。そしてどなり人の音が、きこえてしま

した。自信に落ちたまで歌っていました。私  
はまだ、歌詞もあやふやなものがあり、ああ  
もったもったと頑張らなくてはと、すいしめせ  
りました。そして、自分が歌うことによ、て  
このコンサートを良い物にする自信、が、でき  
れば、と思いました。こ、

九月十五日、いよいよ本番です。さ、きま  
て、まいている側で、オーケストラの演奏を  
鑑賞していたのに、数分後に、自分が舞台上に  
立っていったんです。与から考えろと信じられ

ません。その時は、全く緊張がなく、逆にワ  
 ワワワ、ウキウキして、とても心がはずんで  
 いると思いましたが。大井さんが舞臺に上った  
 て、ワケトを振りはじめたときのことをまだ憶  
 えています。ゾクゾク、と背筋がふるえた感  
 じも憶えています。でも、そんなワケワケし  
 ていた楽しい時間も、あ、という間のことで、  
 自分かあの場に行ったこと、あ、がウソのまじ  
 りしかたがありません。

オーケストラの音、ソプラノ、アルト、テ  
 ノー、バス、どの音も、感じとれた気がし  
 ます。他の人の音も、ききながら自分の音もたす  
 ということができた、と初めて思いました。

あの盛大な音、様々な楽器の中、歌ったこ  
 と、とても貴重な体験であり、希望していた  
 かった人は損なう人だ、なと思いません。本当に  
 やってよかったです。このコンサートも、ワ  
 ー、た一人になれて。

またいつかこんな機会があれば、必ず  
 参加したいです。